

下呂温泉分析表

成分

- 一、源泉名 下呂温泉 (幸田ポンプ所)
- 二、泉質 アルカリ性単純温泉 PH 九・五
- 三、泉温 源泉 摄氏五十五・五度 使用位置 度
- 四、温泉の成分 本鉱水一層に含有する成分及びその分量

成分	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
ナトリウムイオン	一〇八・九	四・七四	九七・五三
カリウムイオン	一・二	〇・〇三	〇・六二
カルシウムイオン	一・九	〇・〇九	一・八五
(一)陽イオンの総計	一一二・〇	四・八六	一〇〇・〇〇
ふっ化物イオン	一六・五	〇・八七	一七・二八
塩化物イオン	七五・〇	二・一二	四二・一一
硫酸水素イオン	〇・九	〇・〇三	〇・六〇
硫酸イオン	一〇・九	〇・二三	四・五七
硝酸イオン	〇・一	〇・〇〇	〇・〇四
メタ亜硫酸イオン	〇・二	〇・〇〇	〇・〇四
炭酸水素イオン	二二・一	〇・三六	七・一五
炭酸イオン	三八・六	一・二九	二五・六三
メタホウ酸イオン	五・六	〇・一三	二・五八
(二)陰イオンの総計	一六九・九	五・〇三	一〇〇・〇〇
メタけい酸	六二・九	〇・八一	(ミリモル)
(三)非溶解成分の総計	六二・九	〇・八一	(ミリモル)
溶解物質(ガス性のものを除く)	(一)+(二)+(三)	〇・三四五	(ミリモル)
遊離二酸化炭素	四・〇	〇・〇九	(ミリモル)
遊離硫化水素	〇・一	〇・〇〇三	(ミリモル)
(四)溶解ガス成分の総計	—	—	—
成分総計	(一)+(二)+(三)+(四)	〇・三四五	g/Kg
その他微量成分			
マグネシウムイオン	〇・一	未満	
アルミニウムイオン	〇・〇七	未満	
マンガンイオン	〇・〇〇一	未満	
鉄(Ⅱ)イオン	〇・〇二	未満	

五、温泉の分析年月日

平成二十五年十一月二十五日

六、登録分析機関

一般財団法人 岐阜県公衆衛生検査センター

岐阜県第二号

禁忌症及び適心症

- 一、一般的禁忌症(浴用)
 - (一) 病気の活動期(特に熱のあるとき)
 - (二) 活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合
 - (三) 少し動くとき息苦しくなるような重い心臓又は肺の病氣、むくみのあるような重い腎臓の病氣
 - (四) 消化管出血、目に見える出血があるとき
 - (五) 慢性の病氣の急性増悪期
- 二、一般的適心症(浴用)
 - (一) 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)
 - (二) 運動麻痺における筋肉のこわばり
 - (三) 冷え性、末梢循環障害
 - (四) 胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)
 - (五) 軽症高血圧
 - (六) 耐糖能異常(糖尿病)
 - (七) 軽い高コレステロール血症
 - (八) 軽い喘息又は肺気腫
 - (九) 痔の痛み
 - (十) 病後回復期
 - (十一) 疲労回復、健康増進
- 三、浴用上の注意
 - (一) 入浴前の注意
 - 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
 - 過度の疲労時には身体を休めること。
 - 運動後三十分程度の間は身体を休めること。
 - (二) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、一人での入浴は避けることが望ましいこと。
 - (三) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
 - (四) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめのコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。
 - (五) 入浴方法
 - (一) 入浴温度
 - 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、四十二度以上の高温浴は避けること。
 - (二) 入浴形態
 - 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
 - (三) 入浴回数
 - 入浴開始後数日間は、一日当たり一〜二回とし、慣れたきたら二〜三回まで増やしてもよいこと。
 - (四) 入浴時間
 - 入浴温度により異なるが、一回当たり、初めは三〜十分程度とし、慣れたきたら十五〜二十分程度まで延長してもよいこと。
 - (四) 入浴中の注意
 - (一) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
 - (二) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
 - (三) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人の助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
 - (五) 入浴後の注意
 - (一) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び三十分程度の安静と心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質例えば酸性泉や硫酸泉等や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと)。
 - (二) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
 - (六) 湯あたり
 - 温泉療養開始後おむね三日〜一週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。
 - (七) その他
 - 浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。